

学年	高校2年	教科	保健体育	科目	保健		単位数	1
教科書名		新高等保健体育			副教材名	新高等保健体育ノート		
コース・クラス		選抜・N進理系						

I. 目標

私たちの心と体は、年齢とともに変化していく。ま健康のために私たちや社会がすべきことも、それにともなって変化している。思春期から中高年期までの健康にかかわることがらについて学ぶとともに、私たちの健康を支えている保健・医療のしくみやそれらの活用のしかたなどについて学ぶ。また、私たちを取り巻く自然環境やそれを良好に維持するしくみや、社会の制度・活動などが密接にかかわっている。それらと個人との努力が組み合わさってはじめて健康な生活が実現するのである。健康に関連する環境・食品の問題や、働くことと健康の関係などについても学び、1年間の授業を通じて、生涯にわたり健康を保持増進していくための、知識と実戦力を身につける。

保健体育の授業では、心身の発達や体力の向上を促すだけでなく、現在および将来にわたって運動に親しむ資質や能力を育て、明るく健全で豊かな生活を営む態度を育成することを目標にしている。

II. 授業のねらい

生涯の各段階において健康についての課題があり、自らこれに適切に対応する必要があることおよびわが国の保健・医療制度や機関を適切に活用することが重要であることについて理解できるようにする。

社会生活における健康の保持増進には、環境や食品、労働などが深くかかわっていることから、環境と健康、環境と食品の保健、労働と健康にかかわる活動や対策が重要であることについて理解できるようにする。

III. 授業の進め方

教科書や参考資料（保健体育ノートやパワーポイントなど）を使って、実際の生活に置き換えて健康について考えながら授業をすすめる。

IV. 学習上の留意点

板書はノートまたはプリントに書き写すこと。また、後から見直して理解できるように色分けし、先生の説明を書き入れる等の工夫をすること。

V. 定期試験

1. 学期ごと定期考査を行う。
2. 出題内容は、教科書、授業での板書や配布プリントから出題する。
 - 1 学期 期末試験：思春期と健康～働くことと健康
 - 2 学期 期末試験：労働災害の防止～食品の安全性を確保する取り組み
 - 3 学期 学年末試験：保健制度とその活用～誰もが健康に過ごせる社会に向けた環境づくり

VI. 評価の方法

1. 評価は定期考査の結果と授業の取り組み（質問への姿勢・態度）ノートなどの提出物を評価（提出期限を守る）、小テストなどを平常点で合わせて評価する。

VII. 授業計画

学期	月	単元・学習項目	評価方法	到達目標
一学期	4	【3 単元 生涯を通じる健康】 1. 思春期と健康 2. 性意識の変化と性行動の選択 3. 結婚生活と健康 4. 妊娠・出産と健康 5. 家族計画 6. 加齢と健康 7. 高齢社会に対応した取り組み 8. 働くことと健康	授業への取り組み	・思春期における心身の発達や性的成熟、健康課題について理解する。 ・自分の行動への責任感や異性の理解と尊重、適切な対処が必要であることを理解する。 ・結婚生活における夫婦関係、親子関係による健康への影響について理解する。 ・妊娠中の健康管理、活用できる母子保健サービスについて理解する。 ・家族計画の意義、人工妊娠中絶が心身へ与える影響について理解する。 ・加齢にともなう心身の変化、若年期の生活習慣が中高年期の健康に影響することを理解する。 ・高齢社会における健康課題について理解する。 ・働くことの意義、健康問題について理解する。
	5		小テスト	
	6		板書・副教材 ノート提出	
	7		1 学期期末試験	
二学期	9	9. 労働災害の防止 10. 働く人の健康づくり 【4 単元 健康を支える環境づくり】 1. 大気汚染と健康 2. 水質汚濁・土壌汚染と健康 3. 健康被害を防ぐための環境対策 4. 環境衛生に関わる活動 5. 食品の安全性と健康 6. 食品の安全性を確保する取り組み	授業への取り組み	・労働災害を防止するための様々な取り組みについて理解する。 ・職場での心身両面にわたる健康づくり活動について理解する。 ・大気汚染による健康影響について理解する。 ・水質汚濁、土壌汚染による健康影響について理解する。 ・環境汚染による健康影響、産業廃棄物汚染課題について理解する。 ・安全な水の確保、上下水道の整備、ごみ処理の現状と今後の課題について理解する。 ・人々の健康を支えるためには食品の安全性の確保が重要であることを理解する。 ・食品の安全性を確保するための行政や生産・製造者の役割について理解する。
	10		小テスト	
	11		板書・副教材 ノート提出	
	12		2 学期期末試験	

三 学 期	1	7. 保健制度とその活用 8. 医療制度とその活用 9. 医薬品の制度とその活用	授業への取り組み	・保健行政の役割や保健サービスの適切な活用について理解する。 ・医療保険の仕組み、医療サービスの適切な活用方法について理解する。 ・医薬品には承認制度や販売に関する規制があり、使用法に関しても正しく使う必要があることを理解する。 ・日本や世界では健康課題に対応した保健活動や対策が行われていることを理解する。 ・自他の健康の保持・増進には健康を支える環境づくりが重要であることを理解する。
	2	10. 様々な保健活動や対策 11. 誰もが健康に過ごせる社会に向けた環境づくり	小テスト	
	3		副教材ノート 提出 学年末試験	

※ シラバスの内容（時間や事項）については、理解度やその他の都合により変更することもあります。